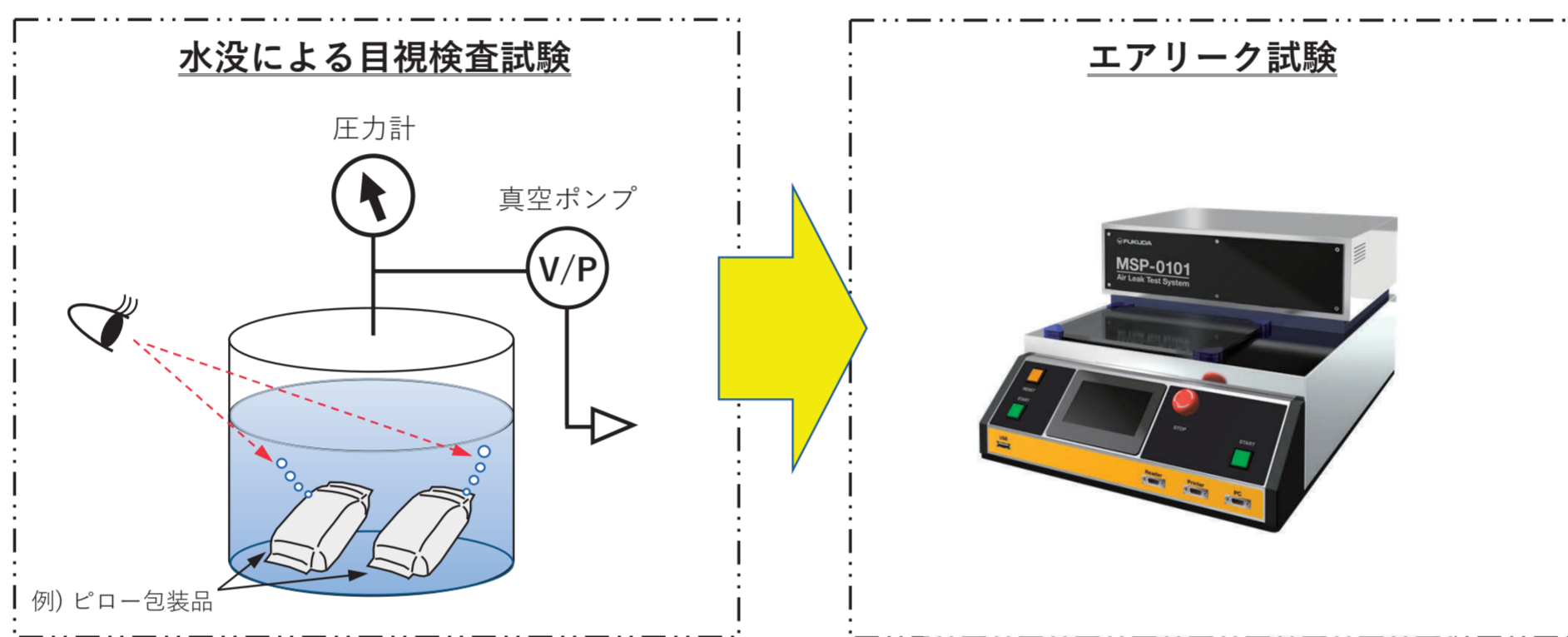


株式会社 フクダ

食品・医薬品ロスの低減にむけて

定性的・破壊試験である液没試験から定量的・非破壊試験であるエアリーク試験へ



水没試験	比較項目	エアリーク試験
10 μm~20 μm	検出可能な最小孔径	○ 5 μm以下可能
30s~3min	試験時間	○ 15s前後
官能試験	数値管理	◎ 圧力変化量(漏れ量)
繰り返しの定量化が難しい	再現性	○ 数値の再現性で確認できる
破壊試験	破壊・非破壊試験	○ 非破壊試験
水(管理必要)	試験媒体	○ 空気
小さな漏れは見逃し易い	ヒューマンエラー	◎ テスタによる数値管理
特定出来る	漏れ箇所の特定	× 特定できない



医薬品や食品の気密性・封止性を確認する一般的な方法として、検査対象を製造ロットから抜き取り、水などに浸漬させて気泡の有無を確認する液没試験法が知られています。しかし、液没試験法は破壊試験に分類されるため、液没試験を実施した検査対象は結果の良否にかかわらず全て廃棄されます。薬価の高い医薬品や、問題のない食品も廃棄しなくてはならないという大きな問題があります。

これに対し、エアリーク試験は空気を利用した非破壊試験であるため、良品判定であった検査対象はそのまま製品として出荷することができ、廃棄ロスを最小限に抑えることができます。また、従来では不可能であった全数検査が可能となり、商品の品質・安全性を確実に検査することができます。

現在、医薬品包装体の全数検査機を開発しています。今後も、安心・安全かつ健康的な生活の提供に貢献する製品を開発していきます。

